

攀ぢ折れる保宝葉を見る歌二首

四二〇四番

我が背子が 捧げて持てる ほほがしは あたか  
も似るか 青き蓋

四二〇五番

皇祖の 遠御代御代は い敷き折り 酒飲みきと  
いふそ このほほがしは

還る時に、浜の上に月の光を仰ぎ見る歌一首

四二〇六番

洪谿を さして我が行く この浜に 月夜飽きて  
む 馬しまし止め